

秦野市公共施設白書

— 平成24年度改訂版 —



平成25年(2013年)3月

秦 野 市

はじめに

昭和40年代から50年代にかけて、経済成長や都市化の波に乗り、日本中で公共施設が一斉に作られました。これらの公共施設は、あと10年もすると一斉に更新しなければならなくなりますが、これに合わせるように、高齢化と人口減少がますます進み、財政運営もより一層厳しいものとなります。これまでのように、安易に一時的な財源を確保して施設を更新すれば良いという発想では、次世代に大きな負担を残すどころか、学校などの必要性の高い公共施設まで、良好な状態で残していくことができなくなります。これが「公共施設の更新問題」です。

この問題は、先の痛ましいトンネル事故などにより、広く知られるようになってきましたが、本市のような取組みは、市民サービスの低下を招くのでは、市民の反対を受けるのではないかなど、手をつけることに「及び腰」な自治体はまだ多いことも事実です。しかし、私は、市政のかじ取り役を任された者として、問題に気づいているのに対策を何もしないということは、将来の市民に対する無責任以外の何物でもないと思っています。今多くの自治体がこの問題に目を向け始め、本市の取組みは、全国から注目を集めています。このことは、大変喜ばしいことであるとともに、より一層身を引き締めて、計画の推進に取り組んでいかなければならないと感じているところですが、他の自治体と本市の一番の違いは、この問題に勇気を持って取り組んできたか否か、その一点に尽きると思います。

私が常々職員に伝えていることは、「急激な変革は、市民生活に影響を与えるから、ゆっくりと離陸できるようにしなさい」ということです。公共施設更新問題においても、勇気を持っていち早く取り組んだからこそ、現在の市民へのサービスに対する影響を最小限に抑えながら、将来の市民の負担を重くすることなく、大切な公共施設サービスを持続可能なものにしていくことができるのです。

こうした本市の取組みのバイブルとも言えるのは、平成21年10月に発行した「公共施設白書」です。本市としては初めて、公共施設の現状や課題を所管の枠を超えて網羅的に把握し、市民の皆様にお知らせしました。しかし、このような情報は、常に的確に公開を続け、問題と向き合う本市の姿勢を示しながら、市民の皆様の理解を深めていただくことも必要です。そこで、最新の管理運営状況や新たな課題などを加えた「秦野市公共施設白書－平成24年度改訂版－」を作成しました。利用者が減少した、管理運営費が増加したというような施設もありますが、改訂前と同様に、市に都合の悪い情報も、利用者である市民の皆様にも都合の悪い情報も、すべてをお見せしますので、今後もより多くの市民の皆様とともに、公共施設のあり方を考えていきたいと思っています。ぜひ御一読ください。

平成25年3月

秦野市長 古谷 義幸

目 次

第1章	公共施設白書について	1
1	公共施設白書の位置付け	3
2	白書で取り上げる公共施設等	3
第2章	秦野市の概要	7
1	位置・面積	9
2	気候	11
3	地形・地質・水系	12
4	沿革	14
5	人口	16
6	財政(平成23年度決算状況等)	21
7	財産	28
8	職員数	30
第3章	公共施設の現状と課題	33
第1節	公共施設の現状	35
1	施設の数と面積	35
2	建物の築年数	38
3	管理運営経費	40
4	土地等を借り上げている施設	54
5	地区別の公共施設の配置	56
第2節	公共施設の持つ課題	68
1	維持管理費用の負担増	68
2	施設の老朽化	68
3	施設機能の重複	71
4	適切な利用と受益者負担	75
5	計画的な維持補修とコスト削減のための工夫	78
6	一元的な管理運営	78

第4章 施設別の現状と課題	79
第1節 学校教育施設	
第1款 施設全般の現状と課題等	82
第2款 義務教育施設	82
第3款 その他の施設	92
第2節 生涯学習施設	
第1款 施設全般の現状と課題等	97
第2款 公民館等	97
第3款 青少年用施設	113
第4款 文化・芸術施設	130
第5款 スポーツ・健康施設	140
第3節 庁舎等	
第1款 本庁舎等	157
第2款 消防庁舎等	165
第3款 その他の施設	170
第4節 福祉施設	
第1款 保育・子育て支援施設	177
第2款 高齢者用施設	187
第3款 その他の施設	197
第5節 観光・産業振興施設	202
第6節 公営住宅	212
第7節 公園・緑地等	216
第8節 上下水道施設	221
第9節 低・未利用地	228
第5章 公共施設再配置の取組み	231
第1節 公共施設更新問題について	233
1 人口減少と高齢化社会の進展	233
2 建築時期の集中	234
3 老朽化の進展	235
4 既に始まっている高齢化社会	236
5 財政負担の試算	237
6 もう一つの根深い問題	238
7 現実になりつつある更新問題	239
8 まとめ	240
9 秦野市の公共施設更新問題への対応	240

第2節	公共施設の再配置に関する方針と計画の概要	241
1	「公共施設の更新問題」の共有化	241
2	公共施設の再配置に関する方針	241
3	公共施設再配置計画と実施状況	244
第3節	取組みにおける課題	246
1	施設の長寿命化	246
2	一元的な管理運営と施設保全	247
3	受益と負担について	247
4	公民連携について	249
5	一人称から二人称、三人称へ	250
第6章	公共施設に関するアンケート結果及び分析結果	251
附属資料	公共施設概要調査結果一覧表（抜粋）	283

本書の作成に当たり用いたデータは、「平成24年度公共施設概要調査」の結果に加え、各年度の「統計はだの」（秦野市発行）、「歳入歳出決算書及び決算附属資料」（秦野市発行）、「主要な施策の成果と報告書」（秦野市発行）、「県勢要覧」（神奈川県発行）及び県内各市が発行する統計要覧等並びに各施設の管理所管課から提供を受けた資料等から転用したものです。

なお、本書で用いている「管理運営費」とは、公共施設の維持や管理に要する経費だけではなく、その公共施設が設置目的にしたがって存在し、運営していくうえでの必要な経費の総額を現したものであり、特段の記載がない限り、「平成24年度公共施設概要調査」の結果による平成23年度の実績値です。

したがって、管理運営に関わる正規職員の労力等に基づき、平均賃金により算定した人件費を加算していることなどから、各施設の事業費の決算額とは異なります。



再配置推進イメージキャラクター
「丹沢つなぐ君」